



柴田 勇雄 議員

### 問 町財政運営の現況と見通しは

### 答 行財政改革以後安定的に運営

14年前と今決算の財政運営の比較について

**議員** 鈴木町長就任時と現在の一般会計決算を比較した財政運営所見は。

**町長** 国による「地方分権一括法」の施行や、「三位一体改革」の施行で、町長就任前から厳しい財政運営が続いた。当時は、公共事業の抑制や職員削減・給与カットなどの行財政改革に取り組み、市町村合併はせずに自立した町づくりを進めてきた。



完成間近の高齢者福祉センター

令和3年度決算は、平成20年度に比べ37億円ほど増え、行財政改革の良い影響が子育て支援・葛巻高校支援・移住定住対策・新庁舎建設などの公共施設整備等に結びついていると認識している。

**議員** 普通交付税の動向と見通しは。

**町長** 令和2年度以降、相対的に普通交付税は増加しており令和6年度までは、同水準での配分が見込まれる。今後は、町公債費が増加することか

ら、当面は交付税が増加すると考えられる。

**議員** 地方債残高は、どのように償還されるのか。

**副町長** 96億円以上の地方債元利償還金の3分の2は、今後普通交付税で措置される見込みであり、町の実質的負担は34億円程度になると思われる。

**議員** 今後の行財政改革の取組み方策は。

**町長** 引き続き「行政コストの圧縮」「費用対効果」を継続し、行財政運営に取り組み。現在安定的な行財政運営ができていくが、変化する社会情勢や世界経済の今後の動向を注視し、柔軟かつ適切な確に組み組める体制を整えて参りたい。

**葛巻町内の聴覚障がい者等への支援について**

**議員** 聴覚障がい者に対する町の支援の現状と今後の課題は。

**町長** 「障害者総合支援法」や「児童福祉法」の基準による補聴器の購入、修理の助成や聴覚障がい軽減のための必要な手術費用の一部助成のほか、各種支援器具・手話通訳派遣費用の給付などが整備されている。

今後は、「情報を得るため、自分の考えを伝えるための手段の確保」という対象者のニーズを踏まえ、関係機関と連携を図りながら、課題解決に向けた取組みを進めたい。

**議員** 聴覚軽度の難聴者に対する補聴器購入への町単独補助制度を創設しただらうか。

**町長** 県事業として「補聴器購入助成制度」が創設されている。県内3市町村で単独事業として整備されており、今後の動向を注視し総合的な対応・検討について協議していきたい。

### 輝くふるさと常任委員会 大雨被害調査

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は、9月7日、8月2日から3日にかけて降った記録的大雨による被害箇所を視察しました。

#### 8カ所を調査

県道、町道を中心に大沢、城内小路、垂柳地区2カ所、小田地区2カ所、毛頭沢、根地戸を現地調査しました。

現地調査には、岩手土木センターと町の建設水道課が同行し、当時の被害状況や当日の対応、今後の対策等を説明していただきました。

#### 災害時の議会の在り方は

9月定例会議後に大雨被害調査のとりまとめを行いました。

各議員から、実際に現地を見た感想や意見、要望などが出されました。

災害時の議会の在り方を確認し、とりまとめを終了しました。

#### 議会を傍聴して

本町に関心のある大学生等を対象として実施している「葛巻型インターシップ」に参加した大学生や短大生5名は、9月2日に再開された9月定例会議を傍聴しました。学生らは、真剣な眼差しで会議を傍聴しており、「会場内の張りつめた空気を体験できた」「真剣に町の施策などを議論しており、熱意が伝わった」「議会や議員の責任の重さを痛感した」「テレビではなく、生の議会を傍聴してほしい」などと感想を語っていました。



議会を傍聴する大学生ら



大きく崩れた町道根地戸線



道路の一部が崩落した町道大沢線

## 町内各所で大きな被害

町の中心部であり住宅地でもある城内小路では、これまでも降雨時には頻りに浸水被害が発生している地域でしたが、濁水だけでなく土砂も流出し、国道281号線にまで被害が及びました。

岩手土木センターでは、